

Ⅲまちづくりの基本方針
(前六)の続きです。

『多様な交流ができるまち』
新潟は古くから、信濃川・阿賀野川の二大河川の河口にできた港を中心に、ものを商い、人々が交わり、情報を交換して暮らすまちでした。

新潟港は、明治元年に五港の一つとして開港された国際貿易港で、日本海側を代表する海の玄関口として発展してきました。

一方、新潟空港は、昭和四十八年に八バロフスク定期航空路が開設され、以後国際空港として日本海側の空の玄関口の役割を担ってきました。

こうした世界に開かれた環境を背景として、現在では、ガルベストン、ハバロフスク、ハルビン、ウラジオストク、ナント、ピロピジャンなどと交流を図るとともに、2002 FIFAワールドカップでは世界各国から多くの人々を迎え入れるなど、市民レベルでの国際交流も活発になっていきます。

また、ロシアや韓国の総領事館が立地していることや、環日本海経済研究所や北東アジア経済会議において、環日本海地域の経済に関する調査・研究・情報提供を行うなど、環境や平和共生などの分野で積極的に提言・行動し、環日本海地域の将来に貢献してまいります。

さらに、高齢社会を迎えて、高齢者福祉の充実の面からも、高齢者等の交通弱者の移動手段として、バス路線網の整備や新たな交通システムの導入などの公共交通機関の充実を図ります。『一人ひとりの思いを受けとめるまち』

地方分権の時代を迎えています。地域のことは地域の個性を尊重し、地域住民とともに考え進めていくことが求められています。新市においては、住民の自治を尊重し、新しい時代に最もふさわしい「分権型政令指定都市」を目指します。

政令指定都市になると、現在県が行なっている事務のうち、市民生活に関わりの深い多くの事務を新市で直接行うことができるようになります。地域の実情に合わせた市民サービスの向上と、きめ細やかな行政を総合的に展開することが可能となります。

また、一定の範囲ごとに区を設定し、区役所を設置することになります。区役所では、戸籍・住民票関係、税務、保健、福祉、各種相談業務などの業務に加え、伝統文化の発展やまちづくりなど地

来に貢献してまいります。

このように、新市は国際港湾・国際空港を持つ、世界に向けた玄関口であり、環日本海圏の国際交流拠点として、より一層発展する必要があります。

新市は、訪れる人々に様々な交流の舞台を提供することができるとともに、それは、各地域が一つひとつ個性を持ち、その魅力を磨いているからです。

例えば、国際交流の拠点として期待される新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」等を活かした国際会議や国際見本市を開催する地域、新潟まつりや白根大風合戦などのまつりやイベントが開かれる地域、北方文化博物館や笹川邸などの伝統文化施設を持つ地域、新津丘陵、福島潟、鳥屋野潟及び佐潟などの自然景観を保全活用する地域、広大な農地を活かした参加・体験型の農業地域、2002 FIFAワールドカップの会場となった「ビッグスワン」等でスポーツを楽しむことができる地域、中心市街地の活性化によつてショッピングや都市的娯楽を提供する地域、そして研究・開発機関として国内外の人が訪れる地域など、それぞれの魅力に光を当てて輝かせ、有機的にネットワークさせることで、交流人口が拡大し、国内外からの人や物が交流する拠点となります。

域の特性を活かす事業や業務を行なうことが可能となり、より地域住民に密着した行政運営を行なうことができます。

十二市町村の合併により誕生する「大きな都市」には、一定の地域ごとに分権することが必要です。

政令指定都市移行前までは、支所などの機能を十分活用するとともに、地域の伝統や文化などを尊重し、従来の地域独自の施策を継続して展開します。政令指定都市の実現後は、さらに行政区にできるだけ多くの権限を委ねることとします。

また、住民が区政に参加しやすい仕組みを作り、地域の自治組織の代表、市民団体の代表、NPOの代表及び学識経験者などの参加を求め、住民自治を育てていきます。

そして、こうした団体や住民と行政とが手を携えて協働のまちづくりを進めることで、自立した活力ある地域社会が創り出されます。

新市は、市民一人ひとりの思いを受けとめ、市民が主人公として発展するまちを目指します。

(なお、地域審議会の設置が決定された場合には、この組織を活用することで、旧市町村の住民の意向が反映されることとなります。政令指定都市実現の後には、地域審議会の統合や、

『自然と共生できるまち』

従来の大都市のイメージは高層ビルが林立し、人工的な緑地が点在する無機質なものといわれています。新市は、広大な農地、信濃川・阿賀野川の二大河川と中小の河川、福島潟・鳥屋野潟・佐潟などの水辺、長く続く海岸線に白い砂と青い松林、緑多い里山などの豊かな自然環境に恵まれた地域です。

その自然環境と高次都市機能の利点を活かし、弱点を補い合うことで都市的な魅力と自然環境の魅力と同時に住民に提供できる都市を目指していくことが必要です。

そのために、無秩序な開発を抑制し、自然環境や農地の保全に配慮しつつ都市化の進展を図っていく土地利用を進める必要があります。

また、豊かに広がる水辺、緑地及び里山などの自然環境と親しみ活用していくことや、環境保全型農業並びに地域循環型農業の推進も必要となります。

自動車の発達に伴い、排気ガスや騒音等による環境の悪化が進んでいます。環境の悪化を防止するとともに、各都市機能の利便性を高め、これらを有機的に結び付けることが必要です。

このため、バス路線網の整備や鉄道利便性の向上、新たな交通システムの導入などの公共交通

それを発展させた付属機関を設けるなど、住民が区政に参加しやすい仕組みを作ります。『2各地域の役割』

「新潟都市圏ビジョン」で示している四つの「発展・連携軸」を参考に、既存の市町村区域を単位とし、地形・地物などの要素を考慮して、以下の六つの地域割を設定しました。なお、政令指定都市移行後の区割については、条例設置の審議会によって十分検討され、決定されるものです。

(1)新潟市地域の役割
(2)豊栄市地域の役割
(3)亀田町・横越町地域の役割
(4)新潟市・小須戸町地域の役割
新潟市・小須戸町地域は、新市における唯一の緑豊かな丘陵地や阿賀野川・信濃川及びこれを結ぶ小阿賀野川、田園景観など恵まれた自然環境の保全・活用に努め、人と自然が共生した美しいまちづくりを進めます。

通機関を充実することが重要であり、現在進められているパーストリップ調査の状況なども見ながら、今後十分な検討を行ない、環境にも、利用する住民にもやさしい都市基盤を整備されたまちづくりを目指します。

新市は、信濃川・阿賀野川の沖積平野に形成され、砂丘地や里山等の一部を除き、そのほとんどが海抜ゼロメートル地帯と呼ばれる低い土地であり、市街地の進展も手伝って、近年の集中豪雨などにおいては、多くの被害が出ています。災害に強いまちづくりを進めるために、ポンプ場や雨水浸透施設の設置等による雨水排除能力の強化を図るとともに、防災体制の強化や広域的な災害応援体制の充実など、災害を未然に防止する対策に努め、自然と共生するにあたって、安全で安心して生活が営まれるまちづくりを目指します。

『ゆとりと潤いのあるまち』
生活を充実させる上では、心身をリフレッシュしたり、趣味やスポーツ、ボランティア活動等にいそしむなど、労働時間以外の余暇の充実を図ることが必要です。

社会全体のゆとりとしては、現在の豊かさの追求だけではなく、未来の豊かさを追うこと、つまり、次の世代をいきいきと育てていく社会を創り上げる必要

バイオビジネスの中核的研究開発拠点形成を目指すバイオリサーチパーク構想を推進することにより、学術・研究開発機能を担い、新産業の創出や地域産業の新たな展開を図り、活力あるまちづくりを進める一方で、環境にやさしいまちづくりに先導的に取り組みます。

また、歴史ある文化、培われてきた産業を活かし、個性豊かなまちづくりを進めます。

新市で唯一の「里山」である丘陵地は、多種多様な植生により、生態系の保全、二酸化炭素の吸収、森林資源の供給のみならず、森林浴、治山治水、水源の涵養等、景観を含めて多くの機能を有しています。それらの保全に努めるとともに、丘陵地内の各種施設を遊歩道で有機的に結ぶなどの一体的な整備を進め、市民が心身をリフレッシュしたり、体験・学習・社会参加できる交流の場としての機能を担います。

固有の自然景観を形成する河川空間は、豊かな水の恵みをもたらし一方で、多様な水生生物の生育空間でもあります。これらの保全を図りながら、親水空間として水辺の整備を進め、自然環境教育やレクリエーション・スポーツの場としての機能を担います。

交通基盤の整備に努めるとともに、TDMやITS施策を

があります。

そのために、在宅介護支援体制の充実、特別養護老人ホームをはじめとした施設福祉の充実、子育て支援や保育の充実、心身の障害に対する十分なケア、生活習慣病の予防及び母子保健等の保健体制の充実など多岐にわたる保健・福祉分野のサービスの充実強化をさらに進めていきます。

子どもをいきいきと育むまことにするにあたっては、各地域の特性を活かした自然・社会体験学習などを通じ、自ら学ぶ姿勢を育てていくとともに、子どもの学習する環境の整備に努めていきます。

また、住民が日々の疲れを癒し、リフレッシュするために、ゆとりの公共空間である公園緑地の整備、まちなみの緑化を推進し、緑の多い美しいまちの創造を目指すとともに、丘陵、河川などの水辺空間、田園及び海浜などの自然的な環境の保全・整備・活用を図り、住民の潤い空間づくりを進めます。

加えて、生涯学習やコミュニティの推進に力を注ぎ、様々な年代で学ぶこと・知ること・活動することの楽しさを覚えることで、住民一人ひとりが輝くまちとなります。そのためには、拠点施設となる図書館・博物館・生涯学習推進センター・コミュニティセンターなどの整備

推進し、都心等への通勤・通学・通院や買い物で周辺地域の豊かな自然環境と調和した快適で安全な居住機能を担います。

産・学・官・地域が連携したバイオリサーチパーク構想の推進により、豊富な農水産資源を有する新潟の特性を活かし、食品・環境・医療・農業等の分野における実践的な研究開発の拠点を担います。

豊かな自然環境の保全を目指す、資源循環を基調とした新エネルギーの導入やバイオ技術の活用により、地球環境の保全をも視野に入れた環境にやさしいまちづくりの先導的な役割を担います。

優良農地を活用し、環境にやさしい、安心・安全な農産物の供給機能を担うとともに、全国屈指の花き・園芸の生産拠点としての役割を担います。また、花き産地として、うるおいのある都市景観の形成を目指し、緑花推進の先導的な役割を担います。

石油や鉄道、花など地域固有の資源を活用し、観光交流拠点の一翼を担います。
(5)白根市・味方村・月潟村・中之口村地域の役割
(6)西川町・湯東村地域の役割